令和５年度

事業計画書

社会福祉法人　登別千寿会

１．社会福祉法人　登別千寿会　事業計画

◎法人　基本方針

『人間愛』を基調とした処遇に徹し、利用者の人格を尊重し、より家庭的な雰囲気の中で自由に生活することをモットーに、全職員一体となり“明るく健康的で、生き甲斐のある豊かな生活”の為、精神的ニーズの把握に努め、個々の特性をよく理解し、豊かな人間関係をすすめ処遇向上に努める。

【事業方針】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大から３年が経ち、令和５年５月には、感染症区分が２類相当から５類相当に変更となりますが、新型コロナウイルス感染症の脅威は変わらず、緑風園では令和５年１月にクラスターを経験しました。新型コロナ禍以前の生活に戻りつつあるなか、感染症対策は徹底した中で、利用者及び家族、関係者に対するサービスの質の向上を目指すとともに、地域貢献にも積極的に取り組んでいき、地域に根ざした事業を行っていきます。

また、年々、職員確保が困難となってきている状況で、職員確保の強化はもちろんのこと、今いる職員の離職防止や資質向上に努めるために、職員教育を向上させるとともに、介護職員の業務負担の軽減も含め、業務改善を進めていきます。

２．特別養護老人ホーム緑風園　事業計画

◎介護老人福祉施設　定員：１０５名
◎(介護予防)短期入所生活介護事業所　定員：７名

【事業方針】

特養の入所稼働率98%以上を目指し、空床期間をなるべく短くし、新規入所者の迅速な調整と、在宅の特養待機者には、積極的にショートステイの利用を促進し、各関係機関との連携により、ショートステイ利用者の確保に努めていきます。
<<各部門事業計画案>>別紙１～５参照

『今年度目標』

・出来る限り空床を作らない様、新規入所者を10日以内に入所させる。
・ショートステイの利用者人数は、１日平均４名、１ヶ月の平均稼働率４０％～６０％を目指す。

３．デイサービスセンター緑風園　事業計画

◎地域密着型通所介護　定員：１８名
◎通所型サービスＡ　定員：７名

【事業方針】

要介護利用者の利用に重点を置き、要支援者の利用も含め、１日の利用人数１６名平均を目指していく。
他事業所への営業を積極的に行い曜日別の空き情報の提供、デイサービス体験など積極的に行い、新規利用者獲得に繋げていき、欠席された利用者への振替利用の促しなどにより、稼働率の向上に繋げる。
<<部門事業計画案>>別紙６参照

『今年度目標』

・１日の利用人数平均１６名を目指し、居宅介護支援事業所・地域包括支援センターへの営業を積極的に行う。

４．緑風園サテライト型特別養護老人ホーム ニナルカの里　事業計画

◎ユニット型地域密着型介護老人福祉施設　定員：２９名
◎ユニット型(介護予防)短期入所生活介護事業所　定員：１１名

【事業方針】

地域に開かれた施設を目指すと共に、春夏秋冬の節句、行事を利用者、職員のみならず、コロナ禍の中での感染症対策を徹底しながら、利用者の家族、地域住民とも行うなど地域に密着した施設を目指す。
ショートステイ事業は、介護者の急病や冠婚葬祭などによる急な利用に対応できる緊急ショートステイ専用ベッドを１室用意し、迅速な対応が出来る環境を整え、幌別地区という立地を活用し、新規利用者拡大に努め、１日の利用者人数６名以上を目標にする。
<<各部門事業計画案>>別紙７～９参照

『今年度目標』

・入所者の平均介護度 4.0 以上を目指し、空床を作らないよう、待機者の状況を常に確認し、空床が出来た際には１０日以内の受け入れを目指す。
・ショートステイの１日平均利用者６名以上を目標とし、緊急ショートの積極的な受け入れを行うと共に、新規利用者の確保に努める。
・コロナ禍の中で、感染症対策を徹底した上で、出来る範囲の季節の行事、個人にあった、個別性のあるサービスの提供に努める。

５．緑風園居宅介護支援事業所　事業計画

【事業方針】

在宅の利用者の生活ニーズの把握に努め、効果的かつ実現可能な質の高い居宅サービス計画の作成に努めるとともに、利用者の医療ニーズが増加・多様化してきているため、医療機関との連携や多種職との協同が今まで以上に必要となってきているため、連携強化に努める。
２名体制の中で効率の良い稼働を目指し、実績数をあげる体制の構築を目指す。
<<部門事業計画案>>別紙１０参照

『今年度目標』

・年度末の合計実績８０件を目標とする
・各研修会への参加・関係機関とのネットワーク構築を積極的に図り、スキル向上に努める